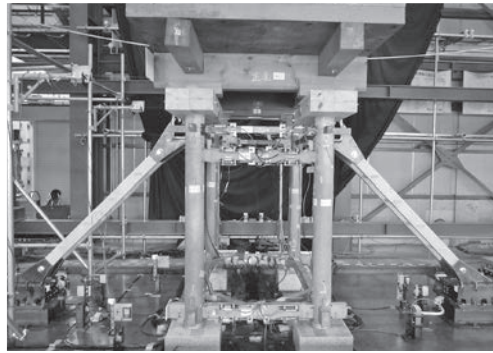
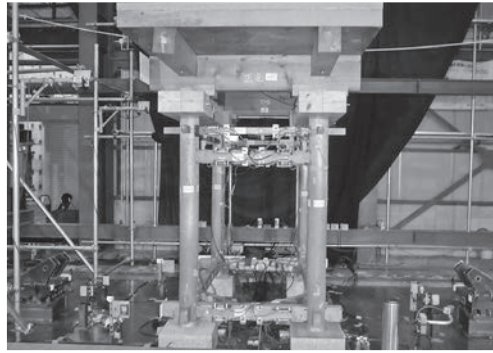


ダンパーの有効性を確かめます

乗せ、水平方向の振動を発生させました。そして、微小な揺れから大型地震を想定した揺れまで振動



縮小模型の階段にダンパーをとりつけて検証しました



模型からダンパーを取外し再び実験します

を加えた結果、ダンパーを設置した模型は、設置しない模型より建物自体の揺れが小さいことが判り、有効的に機能したことが確認されました。これにより不足が懸念されていた御影堂門の南北方向の地震への耐力についても確保ができる見込みとなりました。  
その他、耐震調査研究会では、地震だけでなく台風による暴風時にも御影堂門が耐えられるかどうかという検討なども行っており、御影堂・阿弥陀堂とあわせて御影堂門についても、後世へと確実に受け継いでいくための改良を志しています。

### 御影堂門明治瓦洗い始めました

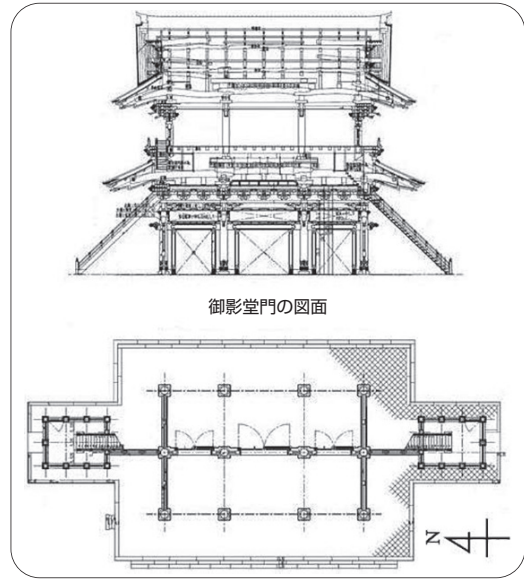
御影堂門の瓦洗いが始まりました（2014年夏まで）。明治度の再建で用いられた御影堂門平瓦を、このたびの真宗本廟両堂等御修復において調査したところ、5万5千枚の瓦のうち、およそ9割がまだ使用できることが判明しました。そのため御修復事業の一環として、明治瓦の再利用にむけての瓦洗いを、真宗本廟奉仕団の方々に体験いただき、御修復に参画していただいております。

瓦洗いでは土や埃などの表面についた汚れを洗った後、きれいに乾かして、御影堂門の屋根に再び葺き上げます。参加された方々の一生懸命丁寧に瓦を洗う姿からは、次の世代へしっかりと瓦を受け継いでいこうという願いが伝わってきました。



# 御修復のあゆみ 〜 伝承された先達の願い

## 御影堂門への耐震補強

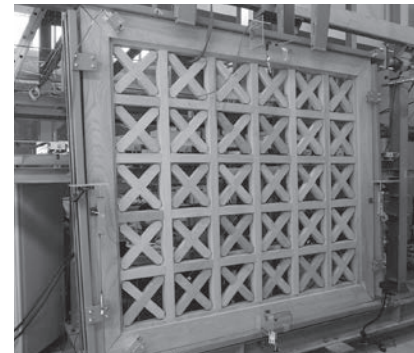


御影堂門の図面

阿弥陀堂の耐震・構造補強工事では、先月号で既報のとおり、柱や枯木などを鉄骨で補強することにより耐震性を高めます。そしてまた御影堂門でも同様に、耐震・構造補強にむけた取り組みが進められています。

強することで東西方向の耐力を確保できる見通しがたちました。一方、南北方向に関しては、一般的に平面形状が長方形の建物は短辺より長辺の方が地震に有利なものの、東西方向のような耐震壁と異なる欄間部を有していないため、地

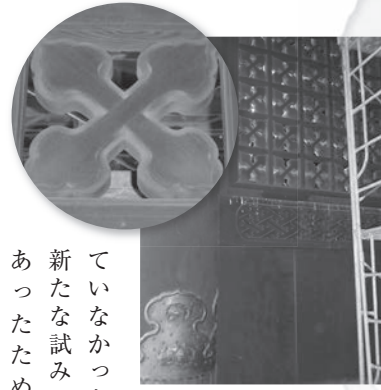
阿弥陀堂・御影堂門耐震調査研究会によると、御影堂門の東西方向に関する耐震性能について実験した結果、下層にある既存の飾り組子欄間が地震への耐力を有する建具であることが確認されました。このため、欄間部及びその下部の板壁を補



飾り組子欄間模型の実験の様子

震に対して弱いことが判明しました。

そこで調査研究会では、御影堂門の南北に配置される楼上へ登るための階段を有効活用して、南北方向の耐力不足を解消できないかと検討を進めてきました。しかし門の外に付属する階段を耐震要素として取り入れようとするこの取り組みが、これまで注目され



御影堂門飾り組子

京都大学で模型による実験を行うことで有効性の実証確認をすることができました。

実験は、御影堂門の南北に配置されている階段にダンパー（振動を吸収する装置）をつけることにより耐震上において有効に機能するかどうかを確認するため、御影堂門の縮小模型を用いて階段にダンパー装置を設置したものと、それらが異なる二種類を振動台に

ていなかった新たな試みであったため、